

「JENESYS2022」日中障害者福祉青年オンライン交流の記録

1. オンライン交流概要

【目的】

日中両国の新たな分野での協力として、「障害・リハビリ分野におけるロボット・機器の応用」「特別支援教育とパラスポーツ」をテーマに、リハビリ分野や障害者福祉の分野での交流を実施し、日中関係の更なる友好親善を図ることを目的として本交流を実施しました。

【参加者】中国の障害者福祉、リハビリ分野、特別支援教育、パラスポーツの関係者 37 名
日本の障害者福祉、リハビリ分野、特別支援教育、パラスポーツの関係者 31 名

【日程】

日にち	内容	参加者の質問・反応（参加者の人数実績）
1 回目 11 月 8 日	【オリエンテーション】 ①在中国日本国大使館挨拶 ②中国障害者連合会挨拶 ③JENESYS プログラム説明 【テーマ：障害・リハビリ分野におけるロボット・機器の応用に関する発表・意見交換】 ①リハビリ大学挨拶 ②リハビリ大学建設について紹介 ③リハビリ大学研究成果発表① テーマ：リハビリテーションに関する中日間の学術交流とその展望 ④リハビリ大学研究成果発表② テーマ：神経筋インターフェイスに基づく多自由度ロボット支援リハビリテーション ⑤日本側発表① テーマ：脊髄損傷に関する研究のフレームワーク開発／臨床研究とその成果の現場実装 ⑥日中双方交流、意見交換 ⑦中国側発表	障害者福祉、リハビリ分野の研究者や従事者等が参加し、テーマに関する研究成果や現状等についての発表、意見交換を行いました。 参加者から「リハビリ大学は医療や技術のみならず、社会の制度面・法律面においても役割を果たすのか、社会分野における任務はどのようなものか」、「脊髄損傷治療に関する新素材の応用について、例えば、新しいバイオマテリアルは日本でどのように評価され、下肢の機能再生においてどのような効果があるか」、「筋肉の萎縮について、リハビリにより筋肉が疲労することで更なる重症化につながるが、治療方法に対してどのような提案があるか」、「中国障害者連合会では、不足する専門家の充実・育成、医療設備の地方における展開等について戦略はあるか、また日中間の交流において、知りたい分野等日本に期待することがあれば教えてほしい」等の質問が挙がり、専門分野における今後の展開や取組等について意見が交わされました。

	テーマ：インテリジェントロボットのリハビリテーション医学への促進と応用 ⑧日本側発表② テーマ：日本のリハビリテーション医療の変遷と現状 ⑨日本側発表③ テーマ：脊髄性筋萎縮症のリハビリテーションについて ⑩日中双方交流、意見交換 ⑪リハビリ大学による総括	(参加者：中国側 30 名、日本側 15 名)
2 回目 11 月 9 日	【テーマ：特別支援教育とパラスポーツに関する発表・意見交換】 ①プログラム説明 ②日本側発表①：千葉県立千葉盲学校 テーマ：日本の特別支援教育の概要 ③中国側発表①：青島市盲学校 テーマ：自主 融合-視覚障害学生の終身発展のために ④質疑応答 ⑤日本側発表②：日本企業 4 社による障害分野への取組・支援について ⑥質疑応答 ⑦日中双方によるパラスポーツ等についての発表 テーマ：パラスポーツの展望と課題について ⑧パラスポーツについての意見交換 ⑨総括、来年以降の活動に向けたメッセージ	特別支援教育の関係者、障害者・パラスポーツへの支援に取り組んでいる日本企業、パラアスリート等が参加し、テーマに関する取組や現状等についての発表、意見交換を行いました。 参加者から「日本の盲学校での職業教育はどのようなものがあるか、またそれを受けたことで就活・就職が変わってくるか。大学へ進学する学生に対してどのような教育を行っているか」、「障害者雇用、支援に関して社内で反対はなかったのか、あった場合どのような意見だったか」、「日本では東京オリンピックが決まってからパラ選手のアスリート雇用をする企業が増えたが、中国ではオリンピックを機に何か変化があったか」等の質問が挙がりました。 最後に、障害者福祉分野における課題に対し解決に繋がる意見交換等の交流を今後も続けていきたいとのメッセージが伝えられました。 (参加者：中国側 29 名、日本側 22 名)

2. 記録写真



2022 年 11 月 8 日 オリエンテーション
在中国日本国大使館 垂秀夫大使挨拶



2022 年 11 月 8 日 オリエンテーション
中国障害者連合会 張海迪主席挨拶



2022 年 11 月 8 日 障害・リハビリ分野について
の意見交換



2022 年 11 月 8 日 集合写真



2022 年 11 月 9 日 特別支援教育についての意
見交換



2022 年 11 月 9 日 日本企業による取組・支援
についての意見交換



3. 中国側参加者の感想（抜粋）

◆リハビリ分野関係者

今回のような双方が発表する方式でのオンライン交流はとてもよかったと思います。お互いに自国の障害者リハビリテーションについて、その理念や技術、手法などを紹介することができました。今後もこのような交流活動が増えることを願っています。また、可能であれば将来的には対面での交流もできればより良いと思います。友好を深め、お互いを知り、学び合い、ともに成長することができると思います。

◆リハビリ分野関係者

中日両国は、高齢化への対応という同じ課題に直面しています。リハビリのサービス、マネジメント、研究、人材育成など話し合いながら一緒に模索できる分野も多いと思います。今回のような交流は、双方の理解・信頼が深まり、両国国民の友情を強めることにも繋がると思います。

◆リハビリ分野関係者

日本ではパラリンピック選手の経費の大部分が企業によって支援されているとのことで、パラスポーツにおいて企業が担う役割が大きいのだと知りました。この点は中国とは大きく異なっており、学ぶべきだと思いました。

◆障害者福祉分野関係者

障害者のリハビリや教育、スポーツなど各方面の制度が日中で異なっており、興味を持ちました。

◆パラスポーツ関係者

日本のパラスポーツに関する政策をより全面的に理解することができました。

4. 日本側参加者の感想（抜粋）

◆リハビリ分野関係者

中国の西洋リハビリテーションにおいて、脳卒中などの高齢者疾患に対する意識が高いことを感じました。

◆特別支援教育関係者

職場にいながらにして国境を越えた交流会に参加でき、改めてオンラインの強みを感じました。国内の盲学校についてはある程度網羅していますが、海外の盲学校についてはわずかな知識しかありませんでした。今回の交流会を通じて多くの発見があり、今後のネットワーク構築に期待が持てたことは大変貴重でした。お互い視覚障害教育に携わる者同士として、情報交換しながら切磋琢磨していければと思います。

◆障害者・パラスポーツ支援に取り組む日本企業関係者

日中両国の特別支援教育や、他の企業の CSR 活動、パラリンピック選の発表等を伺って、大変勉強になりました。特に、選手の生の声を聴いて、とても感動しました。障がい者向けに、日中お互いに交流、勉強しあうチャンスとして、今後とも注目していきたいと思っております。

◆パラアスリート

両国また他競技の選手が、コロナ禍でどのように、そしてどのような思いで活動してこられたのか、このオンライン交流会がなければ知ることのできなかったことなので、今回このような会に出席できたことと大変嬉しく思います。実際にお会いして顔を見て交流したほうがもちろん良いのですが、このようにオンラインでの交流も通訳さんのおかげでスムーズに行えたので良かったと思います。今後もこのような交流が増えていけば嬉しいです。

「日中障害者福祉青年オンライン交流が初開催（2022年11月8日、9日）」

2022/11/11

11月8日及び9日の2日間にわたり、「JENESYS2022日中障害者福祉青年オンライン交流」が開催され、盛大使が中国障害者連合会の張導学主席とともに、ビデオメッセージにて挨拶を行いました。

今回の障害者分野における青年交流は、東京パラリンピック、北京冬観戦パラリンピックをきっかけに深まった盛大使と張導学主席の意見交換に基づき、開始することになったものです。盛大使は、中国障害者連合会やリハビリ大学の関係者、そして日本の参加者に感謝の意を示すともに、日中間がそれぞれ「リハビリ大学」を成功させたこと、新型コロナウイルス感染症の影響下であっても、日中両国に強い信頼があれば、新たな交流を開拓できること等について述べました。張導学からは、障害者分野の青年交流を共有して立ち上げるという盛大使の意図が大いに賛同しており、青年が互いに交流することで、生活や文化、社会への見識を深め、友好を促進することができると、といったお話がありました。

本交流会には、日中の研究者、リハビリ従事者、特別支援教育関係者、パラスポーツ等、障害分野への交流に取り組んでいる日本企業が参加し、主にリハビリ、特別支援教育、パラスポーツに関し、発表や意見交換が行われました。本交流会を通じて、日中障害者分野における交流をより一層推進することが確認されました。

2022 年 11 月 11 日（在中国日本国大使館ホームページ）

「日中障害者福祉青年オンライン交流が初開催（2022 年 11 月 8 日、9 日）」

今回の交流を通じ、日中障害者分野における交流をより一層推進することが確認されたと紹介されました。

以康慶大学建設为主题的日中青年友好交流活动成功举办

张导学：2022.11.11 10:22 来源：青报网

11月8日至9日，由中国残疾人联合会、日本国际青年发展基金会、康庆大学（青）等单位共同主办的“以康庆大学建设为主题的中日青少年友好交流活动”在线上顺利举行。

在开幕式上，中国驻青岛总领事馆、日本驻青岛总领事馆、康庆大学（青）领导小组成员分别致辞，李江波、黄飞、王倩、姜宏等参加活动。

张导学指出，一直以来，中国残联与联合国日本国际青年发展基金会、残奥委会等相关单位进行了诸多交流与合作。2022年中日邦交正常化50周年，今年的中日青少年友好交流活动由两国残疾人联合主办，康庆大学（青）承办，融入了全球对外友好交流的中国残疾人公益和志愿服务，基于当前疫情形势，活动以线上形式进行合作举办。康庆大学正全力推进项目建设，高水平、国际化的康庆大学建设成果丰硕，未来将积极寻求康庆国际组织合作，为改善世界公益事业贡献力量。

曹秀夫表示，今年六月他到康庆大学，看到校园建设和内设施建设进展顺利，今天又听到张导学的精彩演讲，感动和感谢之余坚定了康庆大学、康庆市建设和发展的信心。

张导学还向在场的中日青少年介绍了中国残疾人事业现状和中国残联推进国际交流、推动无障碍“基于网络的国际无障碍自由平等包容人权保障”举措，分享了康庆国际人道城市研究计划、日本国立康庆大学校长亲访情况、北京航空航天大学教授、烟台（北京）玖政管理咨询有限公司董事长陈娟、康庆管理协会代表理事孙超阳以及日本专家代表代田孝治先生发言的视频。参会嘉宾就相关话题展开了深入探讨，双方进行了总结、活动取得圆满成功，明年将继续开展线上线下、线下联动友好交流活动。

张导学还对现场、康庆大学（青）官网视频直播介绍了中国残联教育扶贫帮扶计划和中日康庆国际交流中心、通知教授以“基于网络的国际无障碍自由平等包容人权保障”举措，分享了康庆国际人道城市研究计划、日本国立康庆大学校长亲访情况、北京航空航天大学教授、烟台（北京）玖政管理咨询有限公司董事长陈娟、康庆管理协会代表理事孙超阳以及日本专家代表代田孝治先生发言的视频。参会嘉宾就相关话题展开了深入探讨，双方进行了总结、活动取得圆满成功，明年将继续开展线上线下、线下联动友好交流活动。

2022 年 11 月 11 日（リハビリ科大学ホームページ）

「リハビリ科大学建設をテーマとした中日青少年友好交流活動が成功裡に開催された」

中国のリハビリ科大学分野発展において今後も日中の交流・協力が重要であると紹介されました。

2022年11月11日（中国障害者連合会ホームページ）

「日中障害者福祉青年オンライン交流で張海迪氏が挨拶」

中日両国におけるリハビリ分野の人材育成・研究協力の強化が重要であり、交流を通じて相互理解・友好が深まることが期待されると紹介されました。

実施団体名：(公財) 日中友好会館